

## 令和7年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検・評価結果

令和8年5月

### プログラムの概要

令和7年度より、人文・社会・自然科学を横断する学びを基盤に、地域や社会の課題解決に主体的に取り組める人材を育成するため、実践的なデータ・AI活用力を養う「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開始した。プログラムの科目として、「AI・データサイエンス基礎」を新規開講し、文部科学省の数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムに、本学の特色を考慮した内容を加えた授業を実施した。

### 自己点検・評価結果

以下、自己点検・評価結果をまとめた表を示す。

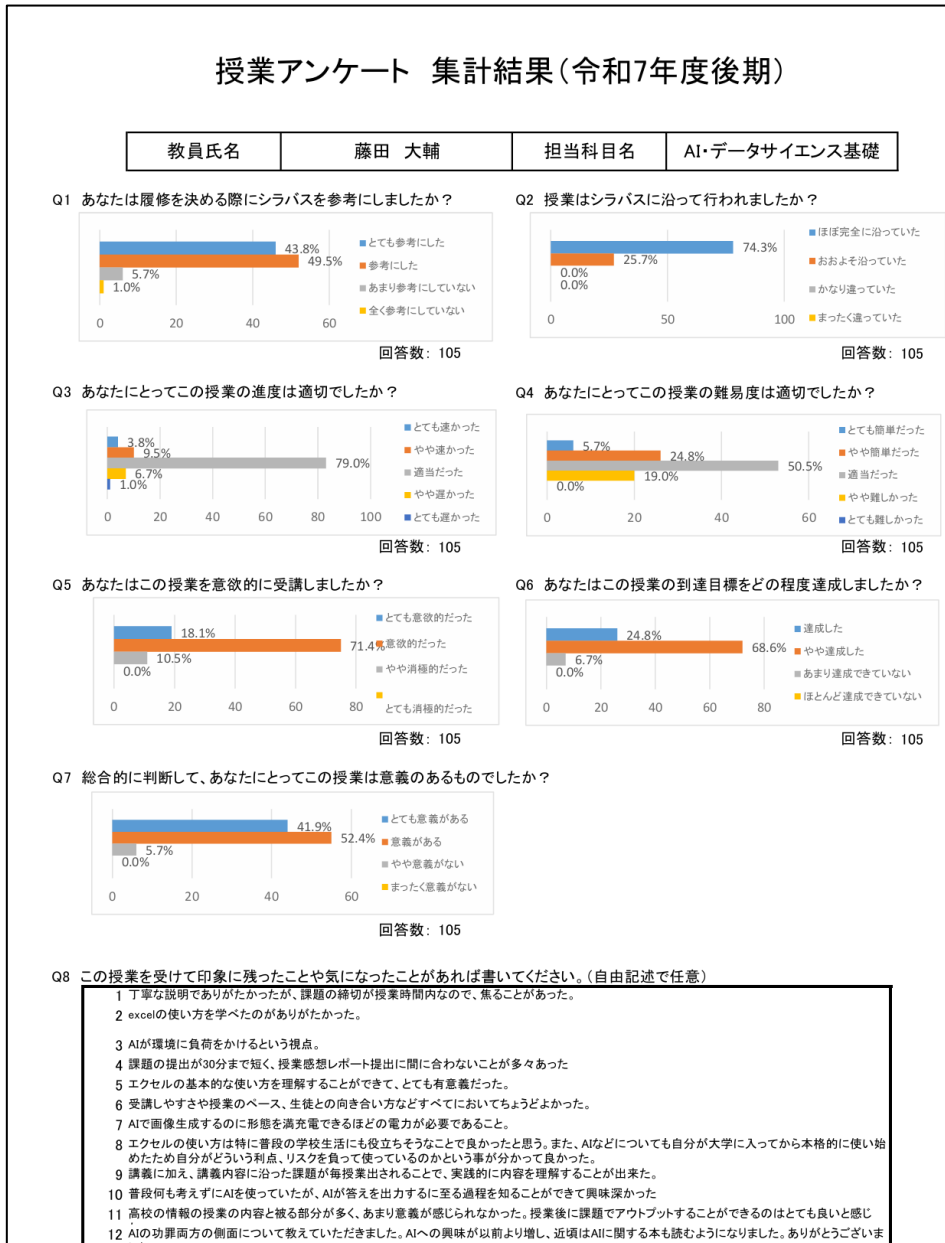
自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	AI・データサイエンス基礎の履修者数について、本学授業を受講可能な附属高校生が29名(59%)、1年生が92名(48%)、2年生以上は10名の計131名が履修し、114名が単位を修得した。(修得率87%) 授業時間が後期の月曜日1限目という実質的に過酷な配置であったことが影響し、履修控えや途中脱落が生じたかもしれない。令和8年度からは、オンデマンド化を決定し、より幅広い学生に履修を促す。
	学修成果	授業アンケートでは、学生にとっての進度、難易度、達成度、意義を主観的に調査しており、「この授業が意義あるものである」と回答した学生が約94%、「意欲的に受講した」と回答した学生が約90%であった。アンケート結果については本専門部会員に共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。

	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	AI・データサイエンス基礎では、105件の回答が得られ、達成度の質問(あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか?)では、肯定的な回答(達成した・やや達成した)の合計は93%であった。その他の項目(シラバス準拠、難易度、進度速さ、意欲、意義)も肯定的な回答が多数であった。一方、自由記述でいくつか見られた「授業内課題の時間の短さ」が反省点である。これに関しては、令和8年度のオンデマンド化により、より柔軟な時間設定をする予定である。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和7年度の授業評価アンケートには後輩や他学生への推奨の質問がなかったため、今後質問の追加を検討する。併せて、受講の感想等の意見を本教育プログラムのHPに掲示する等、受講を促す仕掛けを検討する。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	引き続き入学式での学長からの話、新入生ゼミの講演会での受講案内を続ける。また、新入生時点でのやる気を持った状態で受講させるため、令和9年度以降AI・データサイエンス基礎を前期開講とすることを検討している。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	進路に関しては、就職アンケートに、本プログラムの修了有無を確認する質問を追加し、予定進路との分析する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本専門部会に民間企業経験のある教員が部会員として参加しており、産業界からの視点を踏まえた教育プログラムを企画・実施できる体制を整えている。 また、AI・数理・データサイエンスに関するリスキリング講座を実施する予定であり、そこでのアンケートにより産業界を含む学外の意見を収集する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本学の特徴(社会学の教員が多い)を鑑み、MicrosoftFormsを用いたアンケート作成・回答の収集の演習を実施し、学生がより直接的にデータの収集の方法を学べるようにした。次年度以降も継続する。

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業内で Excel を中心とした演習を行ったが、演習時間が短いというアンケートでの意見があった。それを踏まえ、令和8年度から AI・データサイエンス基礎を全面オンデマンド化し、Excel の操作の確認・課題への取り組み時間に柔軟性を持たせることとした。

(参考)「AI・データサイエンス基礎」の授業アンケート



以上